

今 合 同 新 聞 (夕刊) 2016年(平成28年)7月15日

芸能



2015年舞台作品「百
花繚乱 日本ドラム絵巻」
では、TAOの結成以来、
初めて僕以外の演出家を起
用した。宮本亜門氏だ。
亜門さんはダンサー、振
付師を経て演出家となっ
た。日本のミュージカルの
第一人者であり、それで
いてストレートプレーや歌舞
伎など、特に近年の実績は

TAOが描く 日本の夢 NY公演を終えて

亜門さん 演技や表現を指導

実際に多岐にわたる。会つてすぐに意気投合し、あつて一緒に新作舞台の制作演出という話が決まつた。TAOの魅力は、必要な段階だと確信した。

一方、TAOは和太鼓の技術や表現方法は自ら確立しそ他の楽器においても一律とされる方に師事し、それをさらにTAO流にアレンジすることで独自の世界観を築き上げてきた。しかし、ことストーリーの表現、つまり演じるといふことにおいての経験は皆無だった。

制作に当たり、亜門さんはTAOの里に1ヶ月もの間滞在し、舞台上での演技や表現方法をみっちり指導してくれた。この経験はアーティストにとって全く

のに！」「TAOらしくない！」…辛辣な意見もあつた。

しかし、TAOを次のレベルに引き上げるために用する作品をつくるために、「僕の役割はTAOの魅力は、必要な段階だと確信しました。

その非常に美しい舞台美術の中、従来のTAOらしい「魅せ方」も随所にちりばめられてきた。おかげでこれまでにない「言葉のないミニチュアカル」が完成した。

そして心に決めていた今

お芝居に加え、いつもと雰

いた。ツアーには要所で

手直しを加えた。観客もス

トーリーに涙し、もう一度

手直しを加えた。観客もス